



1 すみ

『すみ』は、木を蒸し焼きにして作った燃料です。

日本では、石油やガスなどが使われるようになるまで、
古くは平安時代から広く使われていました。現在では、
キャンプやバーベキューなどのレジャー、茶道などに
使われたり、飲食店での利用が多いようです。

焼くときの温度や、使用する木材の違いにより、多くの種類があります。



2 お米からできているもの

『のり』というのは、「でんぷん」に水を足して、
熱を加えるとできる、ねばりのある状態のことです。

お米には、この「でんぷん」が多く含まれているので、
昔はお米を使って、『のり』を作っていました。

他にお米から作られているものには、『日本酒』『酢』
『みそ』『お菓子（せんべい・団子・ポン菓子など）』
などがあります。



3 ひきやく

『ひきやく』とは、手紙やお金などを運んでいた人、

今でいう宅配人のことです。鎌倉時代には、京都と
鎌倉間を連絡していた『ひきやく』の存在が知られて
いますが、江戸時代になって特に発達しました。

幕府公用のための継ぎ飛脚、諸藩専用大名飛脚、
民間営業の町飛脚などがありました。

明治4年（1871）郵便制度の成立により廃止されました。

